

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
<b>1. 理念と共有</b>			
1	○地域密着型サービスとしての理念  地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	できる限り地域社会と密着するように地域の行事(小学校の催し、地区の祭等)に参加するように心がけている。また、地区のボランティアも受け入れるよう努めている。	○  地域にはお年寄りも多い状態で、そのお年寄りにお茶を飲みに来て頂けるようにお誘いするが、皆さん働き者で田畑の仕事が忙しくなかなか来て頂けない。
2	○理念の共有と日々の取り組み  管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎月末の午後1, 2ユニット合同の職員会議を実施し理念が実際に実施されているか話し合い、至らぬ点については今後そのようなことが無いよう申し合わせている。	○  当施設の理念をスタッフルームや職員トイレに貼り常に理念に接するようにしてある。職員会議でもできるだけ話題にしている。
3	○家族や地域への理念の浸透  事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	家族会を開催したり地域の小学校との交流の中で少しずつ理解してもらえるようになったのではないかと。又、今年は中学生ボランティア学習を受け入れ事前に管理者が1年生全員を対象に認知症の理解、対応についてなど話しをする機会をもつことができた	○  今後も御家族・地域の方に理解を深めてもらえるよう取り組んでいきたい。
<b>2. 地域との支えあい</b>			
4	○隣近所とのつきあい  管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩の時など区内の親しい方の家に立ち寄ることがある。周りの畑の方から農作物や花を頂いたりしている。	○  グループホームへ立ち寄って頂くことが少ないためもっと地域の中へ入っていかねばと感じている。
5	○地域とのつきあい  事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	区内の小学生との交流は開設年度より続いており、子供達だけではなく保護者の方とも交流を持てるようになってきている。夏の地区の子供みこしは毎年グループホームの駐車場で休憩をして利用者と一緒に茶をもちなどして交流の場となっている。	○  文化祭を見学に行くことはあるが、その他の地域の活動等には参加できていないため今後積極的に参加をしていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p> <p>運営推進会議に地域のボランティア、民生委員、入居者御家族に入って頂き認知症の勉強会を実施している。</p>	○	認知症の学習会もできるだけ組み入れていきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p> <p>前年度指摘を受けた洗剤等の保管場所については鍵のかかる倉庫に保管するようにしたり、利用者が開けずらい戸棚の中にしまうほど改善した。又、佐久圏域グループホーム連合会を立ち上げ相互評価、訪問研修を開始した。</p>		
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p> <p>毎回近況報告は必ず行なうようにしている。又その中で困っていることなどについて出席者からアドバイスを頂き実践している。外か見たグループホームについても沢山の意見を頂きサービス向上に活かしている。</p>		
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p> <p>月1回の市のサービス調整会議の中のグループホーム部会（市内グループホーム管理者・市高齢福祉課担当者・包括支援センター担当者）に出席しグループホームの問題点、事例検討を行いながらアドバイスを頂いている。</p>	○	部会での内容については職員会議で報告している。
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p> <p>管理者は成年後見制度についての研修会に参加し必要と思われる入居者については御家族に説明をし必要性を話し合った。</p>		
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p> <p>管理者は高齢者虐待防止関連法について研修会に参加しホーム内での虐待が無いよう防止に努めている。</p>		入居者と御家族は皆良い関係である。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約するときは契約書について時間をかけて説明し納得して頂いている。それぞれの事情があって退所する場合、完全に同意を得て、退所先をお世話する。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者が職員に話しやすいよう雰囲気気を付けるようにしている。御家族へ訴えた事もできるだけお聞きし改善できるようにしている。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	預金の収支については月末に領収書を添えて報告する。健康状態等に関してはできるだけ早く連絡するようにしている。又、職員の移動・行事などはホーム新聞を毎月発行して報告している。	○ 御家族より会計が極めて明朗であるとの声がかたい。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年1回後家族に施設に対する匿名のアンケート調査を実施し、意見などほぼ完全に把握している。御家族からの要望などに関しては用紙を作成し必ず記入するようにし周知徹底をはかるようにしている。	○ 投書箱の設置も考えている。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の職員会議、日々日常、職員の意見に耳を傾け必要性の高いものは即実行に移す。	○ 職員会議以外でも日常的に職員が運営者に気軽に意見を述べられるような雰囲気作りに気を配っている。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	職員数が十分でない現状では、要望に柔軟に対応することは困難であるが、可能な限り対応している。1・2ユニットを1人で見る夜勤は過酷な勤務である	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	原則として第1ユニット、第2ユニットと職員の移動はほとんどない。各ユニット共に入口に職員の写真と氏名を提示し、御家族に対しても顔と氏名を一致して頂くように工夫している。	○	職員の移動を極力おさえ、ユニット間の移動もほとんどしていない。
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19 ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回職員の大部分参加の職員会議を開き、その中で、介護の研修に十分時間をとっている。認知症に関する研修会、救命講習の参加の機会を確保するようにしている。		
20 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会に加入し講習会、ホーム相互訪問を実施している。1～2ヶ月に1回のペースで佐久圏域12箇所のグループホームの管理者が集まり情報交換の場をもっている。又、月に1度小諸市主催のグループホーム部会でも情報交換の場をもち良い部分は取り入れるようにしている。	○	同業者の交流をすすめている。職場の相互訪問も実施している。
21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	経営者（担当理事）は職員とできるだけユーモアを交えた会話を多くもち職員と人間関係を深め、ストレス軽減に努めている。	○	経営者は、職員に対して思いやりの気持ちで接している。自由にものが言える雰囲気作りに努めている。
22 ○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	経営者は職員と一緒に過ごし職員を言葉遣いや利用者に接する優しい物腰に気付くと褒めて励ましている。	○	さらに利用者の尊厳を向上させる対応を実施するよう取り組みをしている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	○初期に築く本人との信頼関係  相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談時は管理者が御家族や居宅マネージャーから本人の現在の状態を細かくお聞きし、できるだけ事前に本人に面接し困っている事、不安に思っている事など話を聴く機会をもつようにしている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係  相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	運営者及び管理者が十分時間をとり御家族が困っていることを聞きとりその解消に努め、この情報は職員全員が共有し、それを念頭におきながら介護をするよう努めている。	○  入所してからも御家族が来訪されたとき又は、電話等で連絡を取り合い要望を聞き対応をしている。
25	○初期対応の見極めと支援  相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた段階で専門医の受診・治療が必要と思われた時は、専門医の紹介と、どのように受診したら良いかなどお話しするようにしている。	
26	○馴染みながらのサービス利用  本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入所前に本人の性格・人柄を十分に調べそれに対応した処遇を職員間で検討して対応する。	○  入所前に御家族、本人に当施設に来て頂きケアマネージャーを中心に職員が施設の特徴を説明し安心感を持ってもらえるように努めている。
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	洗濯物たたみ、食事準備、片付け、掃除等、本人のできることを一緒に行ないながら十分なコミュニケーションをとるようにしている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28 ○本人を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	御家族が食事の時間に来所され介助をして下さり職員と様子を話したりされている。又、来所して頂いた御家族にはそのつど様子をお話していくようにしている。		
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援  これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	入所前の本人の生活状況、御家族との関係についてなどできる限りお話を聞いたうえで本人の御家族に対する思い、御家族の本人に対する思いを探り関係の改善やより良い関係が築いていけるよう支援を心がけている。		
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	同じ区内出身の入居者の方は自宅まで散歩にお連れして隣近所の方と交流がもてるよう支援している。		
31 ○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	気の合う入居者同士は何かお手伝いをお願いする時も一緒にして頂けるように声をかけたりしている。どうしても気の合わない入居者がいる時にトラブルになりそうな場合距離をおいて頂くなどの対策をとるようにしている。		
32 ○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	同じ医療法人の病院や老健施設に移る場合が多くあり職員がお見舞いに行ったり、御家族がグループホームを訪問して下さることもある。	○	グループホームを退所して入院後お亡くなりになったような場合、葬式に参列するようにしている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の訴え行動等により本人の気持ちをできるだけ理解し、ケアプランに活かせるよう努めている。重度の方に関しても表情や行動により理解するよう努めている。	
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	各人に生活史録表を作成して入所までの人生の概略の把握に努めている。	○ 生活史の中で人生で最も得意だった時代をできるだけ話題にして心を癒していただく。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	常に利用者の認知症の程度ならびに身体状況の程度を観察しその人に適する対応をしている。	○ その方の誇り、自尊心の傷つけない配慮しながらの対応。
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	月に1度のカンファレンスの実施、又日々の中でも利用者の様子などから職員がいろいろなアイディアや意見を出してくれるので反映できるよう努めている。	○ 月に1度のケースカンファレンスでは時間の足りない時もあるので日々の中でももう少し定期的に話し合いの時間がとれるようにしたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画作成者は御家族と介護職員の意見を聞き又、計画作成後も必要に応じて見直しを行なっている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>		
<p><b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b></p>			
39	<p>○事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	○	<p>御家族が来やすくゆっくりして頂ける雰囲気・環境作りに努めたい</p>
<p><b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b></p>			
40	<p>○地域資源との協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している</p>	○	<p>小学校との交流は開所以来続いているが今後中学校との交流を深める中で子供達にも認知症に対する理解をもってもらえるよう努めていきたい。</p>
41	<p>○他のサービスの活用支援</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている</p>		
42	<p>○地域包括支援センターとの協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している</p>		



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	○	<p>看護師の経験から本人の状態により適した精神科医をすすめる場合がある。</p>
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49 ○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居 所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケ ア関係者間で十分な話し合いや情報交換を 行い、住み替えによるダメージを防ぐこと に努めている	入院や老健・特養に移り住む場合本人がパニック にならないように家族や職員が十分に話し合っ て対応している。本人のグループホーム内でのそれ までの経過はできるだけ詳しく情報提供書に記入 しお渡しするようにしている。	○	グループホーム内のそれまでの経過はできるだけ 詳しく移転先にお渡しするようにしている。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b> <b>1. その人らしい暮らしの支援</b> <b>(1) 一人ひとりの尊重</b>			
50 ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ね るような言葉かけや対応、記録等の個人情 報の取り扱いをしていない	プライバシーの保護については契約書に明記し実 践している。本人が誇りとしていることについ ては、時々本人との会話の中で話題にし本人に自尊 心を持っていただけるよう工夫している。		
51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きか けたり、わかる力に合わせた説明を行い、 自分で決めたり納得しながら暮らせるよ うに支援をしている	本人の日常的な言動をよく観察して希望している ことを推測し、それに沿うように努めている。		
52 ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのでは なく、一人ひとりのペースを大切に、そ の日をどのように過ごしたいか、希望に そって支援している	お手伝いやレクリエーションについては声がけを しても本人が嫌がる時は無理強いせず本人のやり たい事をして頂くようにしている。食事もその日 の状況により他の利用者と時間をずらして召し上 がって頂く事もある。		
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>			
53 ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれがで きるように支援し、理容・美容は本人の望む 店に行けるように努めている	重ね着やチグハグナ着方をしていた場合は声をか け直して頂くようにしている。利用に関しては月 に1度ホームへ床屋さんに来てカットして頂いて いる。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
54 ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の下ごしらえ、野菜切りなどをして頂いたり、台拭き・お箸配りなど食事の準備に係わって頂いたり食後の食器洗い等も職員と一緒にこなして頂いている。		
55 ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	本人の希望により日常的に酒、ビールを楽しんで頂いていたが、現在は希望者がおらず出していない。ただし、非喫煙者が入所の条件となっているので煙草は誰も吸ってはいない。		
56 ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄に関しては一人ひとりの排泄パターンを把握し声掛け誘導にてできるだけ失敗のないよう援助している。		
57 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	時間は職員の都合で決めてしまっている部分はあるがゆっくり入浴して頂く為には仕方がないと考えている。入浴前は拒否がある方も声掛けの工夫やタイミングをずらしながら入って頂くと気持ち良く長湯をされる事が多い。		
58 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	入居前の生活習慣やその日の体調により、お手伝い等は無理強いせず休んで頂くようにしている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>			
59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	御家族にも御協力頂き生活歴の把握に努めている。その中で趣味や好きなことなど一緒に行ったり、日常生活の中で役割をもってお手伝いして頂いている。又、天気の良い日は散歩やドライブに出かけ気晴らしできるようにしている。		


項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	認知症が進行しお金が管理できなくなる方はほとんどいなくなった。お金はこちらで管理しスーパーに買い物に行くとき一緒に行き欲しいものを買う経験をして頂いている。		市内の知的障害の方の作業所で作ったパンを販売に来て頂き一緒に選んでお金を払って頂き少しでも買い物の経験をしてもらうような試みを始めたが今後も続けたい。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	帰宅要求の強い方は御家族から鍵をお預かりして自宅までお連れすることがある。天気の良い日は出来るだけ散歩にお連れするようにしている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	できるだけ外出するように心がけていると共に遠方の公園に桜の花見や苺狩りなどに出かけるように心がけている。	○	ボランティアの方や小学校などとの交流を深めていく中で一緒に外出する機会をもっと作りたい。
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	字を書ける方には年賀状を書いて頂いているが日常の手紙のやり取りは行っていない。電話については会話が出来る方は職員が番号を押してお話して頂くようにしている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	御家族や知人が来所された時は居室でゆっくり過ごして頂けるようにしている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体的な拘束は行っていない。抗精神薬についても主治医と本人の状態を相談しながら落ち着いた状態であれば少しずつ減量して内服を中止するようにしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66	<p>○鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>	○	<p>徘徊をしている利用者が居室に入るのを嫌って内部から鍵をかけられる方もおられるが外からも職員が鍵を開けられるようにしてある。</p>
67	<p>○利用者の安全確認</p> <p>職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している</p>		
68	<p>○注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている</p>		
69	<p>○事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる</p>		
70	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p>		<p>全職員に人工呼吸の訓練を定期的に行なっている。</p>
71	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>		<p>年2回避難訓練を夜間も含め実施している。地区消防団、近隣住民の協力も頂き、分担も決めている。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	<p>○リスク対応に関する家族等との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている</p> <p>その時々利用者1人1人の状態に応じリスクの危険性を御家族にも説明しどのように対応していくか話し合っている。</p>		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>○体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている</p> <p>毎朝体温血圧測定を実施し異常のあった場合や体調不良の訴えがあった時は速やかに看護師に報告し対応している。</p>		
74	<p>○服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p> <p>看護師が医師の処方と指導のもと介護職員に薬の十分な説明をし誤りのないよう努めている。又、一人ひとりの内服薬を一冊のファイルにまとめ職員がいつでも確認ができるようにしている。</p>		
75	<p>○便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる</p> <p>便秘による不機嫌さ腹部膨満感等職員は常に気を使って観察し必要に応じ看護師が医師の指示のもと下剤の調整、浣腸等を施行している。又、水分を多く取って頂いたり散歩に連れ出すなど体を動かすようにしている。</p>		
76	<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている</p> <p>毎食後必ず口腔ケアを実施している。自立度の高い利用者に対しては見守りで、自立度の低い方には職員が介助にて行っている</p>		
77	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p> <p>献立は管理栄養士に見て頂いている。3度の食事時、2回のお茶の時間に十分な水分摂取に努めている。</p>	○	時間に関係なく水分補給できるよう改善していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○感染症予防  感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	診療所・老健と共に感染症に対するマニュアルを整備している。又、日頃から便の付いている尿取り等は1つずつ袋に入れて処分したり、外出後のうがい手洗いの施行（面会の方にもお願いしている。）インフルエンザの予防接種は毎年全員の方に受けて頂いている。		
79	○食材の管理  食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食器・調理器具は毎回食洗機にかけるようにしている。食材は傷んだものはすぐに捨てるようにしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫  利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関にはユーモラスなフクロウの木彫り立像とベンチを配置し、利用者や近隣のお年寄りにも気軽に腰掛けられるようにしてある。		
81	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間は季節感を感じて頂けるよう飾りを工夫するようになっている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下に固定のベンチを配置し一人で又は、2～3人で腰掛けて世間話ができるようにしてある。又、リビングではソファが気に入っている利用者がいらして食卓ではなかなかお茶を飲んで下さらないのに、ソファに座るとゆっくり落ちついて飲んで下さる。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>83</p> <p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>歩行不安定な方も多く居室に色々な物を置くと転倒の危険もあるためなかなか物を置くことができない場合もあるが写真や絵などをできるだけ飾るようにしている。</p>		<p>御家族の中には馴染みの物を持ち込んで家に帰りたいと訴えてこないかと心配される方もいるので、それぞれの方の事情等をよく話し合いながら居心地良く過ごして頂けるスペース作りに取り組んでいきたい。</p>
<p>84</p> <p>○換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>	<p>日中は天気が良いと南向きのため室温が高くなってしまいうため窓を開けて調節している。便失禁があった時など臭いが籠ってしまうため換気をしたり消臭スプレーなどで気を付けるようにしている。</p>		
<p>(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</p>			
<p>85</p> <p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>トイレは全て介助用のものに統一してある。又、廊下は全て手摺を設置してある。</p>		
<p>86</p> <p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>	<p>各居室の入口には彫刻の表札をかかげ、トイレの入口には『お便所』と大きく紙に書き貼り出し、居室のタンスには衣服の種類を表示してある。</p>		
<p>87</p> <p>○建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>	<p>暖かい時期は庭の花壇や畑に出て花を楽しんだり、野菜の収穫などを楽しんでいる。又、玄関前にはブドウ畑があり1年を通してブドウの成長を見るのが利用者の楽しみの1つとなっている。</p>		

(  部分は外部評価との共通評価項目です )



V. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

『防犯の徹底』

①入所者・職員共に喫煙を禁止 ②仏壇でのローソク・線香の禁止 ③ライター・マッチの所持禁止 ④キッチンのオール電化 ⑤建物周りの可燃物の撤去  
⑥万一の出火時外部より中に入れる工夫 ⑦冬期想定を含む年2回の防災訓練 ⑧地区消防団との連携 ⑨近隣住民との連携

『花壇・菜園等の重視』

・花壇3箇所を活用 ・菜園の活用 ・イチゴ畑・・・毎年イチゴ狩り実施 ・ブルーベリー・・・ブルーベリー狩りを楽しむ 等

地域の小学生との交流

・開所以来近くの小学校との交流を続けており最近では保護者の方の理解も深まってきたかのように思える。今後は中学校とも定期的に交流し、認知症を理解してもらえるようにしていきたい。